

令和7年9月に IVR-CT最新機種を導入しました

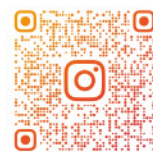
IVR-CT(血管撮影装置)は、カテーテル治療に欠かせない装置です。カテーテル治療は、生活習慣病の増加や高齢化によって血管の病気が増加する中、低侵襲な治療として普及が進んでいます。当院の限られた医療資源で効率よく治療が行えるよう、CT搭載の最新システムが導入され治療を支える装置として重要な役割を果たしています。



遺伝診療センターが発足しました

令和8年度(2026年度)より遺伝診療センターを発足させ、遺伝性腫瘍や家族性疾患などに対する専門的な遺伝診療体制を強化しました。臨床遺伝専門医が4名、認定遺伝カウンセラーが2名在籍し、各診療科と連携して遺伝学的検査の適切な実施や結果の評価を行っています。さらに、専門スタッフによる遺伝カウンセリングを通じて患者さんやご家族の意思決定を支援し、包括的で継続的な遺伝医療を提供します。

市立豊中病院 公式Instagram



イベントのお知らせ、診療・医療の取り組みや健康情報など発信します！



@TOYONAKA_MUNICIPAL_HP

市立豊中病院は、令和8年度(2026年度)6月から 大学病院本院に準じる高度な急性期医療を行える病院として 「DPC特定病院群」に指定されました。

DPC特定病院群とは、次の4つの条件を満たした病院が選ばれる区分です。

診療密度	多くの患者さんに診療を行い、迅速に対応できる体制を整えている。
医師研修の実施	医師の教育・研修を積極的に行い、医療の質を向上させている。
高度な医療技術の実施	外科手術や特定内科診療など、高度な医療技術を実施している。
重症患者に対する診療の実施	重い病気やけがをした患者さんに対して、適切で迅速な治療を提供している。



今回の指定は、今まで当院が行ってきた高度な急性期医療が評価された結果です。今後も、質の高い医療を提供し、地域の皆さんが安心して暮らせるよう中心的役割を果たしてまいります。

市立豊中病院のがんの手術 ～確かな技術と連携で、あなたに寄り添う～



当院は国指定の地域がん診療連携拠点病院として、大阪大学医局から派遣された、がん手術に精通した医師が多数在籍し、高度ながん手術を数多く行っています。

急性期総合病院として、31の診療科が緊密に連携し、併存疾患のある患者さんにも安全な手術を提供しています。また、多職種が連携し、患者さん一人ひとりに寄り添い、安心して手術を受けていただける体制を整えています。

今回は、「がんの手術」特集をお届けします。

基本理念

豊中市の中核病院として『心温かな信頼される医療』を提供します。

基本方針

- 1 患者さんの立場に立った心温かな病院をめざします。
- 2 地域の中核病院として安全で質の高い医療を提供します。
- 3 医療機関等との連携を密にし、市民の健康を守るために努力します。
- 4 少子高齢社会に対応する医療を推進します。
- 5 病院職員の教育・研修の充実を図ります。



※低侵襲手術:からだに負担(侵襲)が少ない手術

YouTube動画の案内